

事業名	市民協働「熊谷の力」ごみ減量をテーマにした市民手作りの演劇公演事業	
実施団体等	実施団体：風結の会	所管課：廃棄物対策課
1 事業目的	ごみ減量化をテーマにしたオリジナルのはみ出し紙芝居を創作し、それを市民参加により、市内各所で上演することで、市民意識の向上を図る。	
2 事業概要	究極のリサイクル社会を実現していた江戸時代を舞台に、ものを大切にしない行動が大問題を引き起こすというストーリーを、巧みな落語調の口調で進行させる「はみ出し紙芝居」の手法で観客の関心を引き出した。	
3 事業期間	平成26年4月1日～平成27年2月28日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業	
6 事業費	総事業費： 621,103円(A+B+C)	事業収入：0円(A)
	実施団体の負担額：21,103円(B)	市の負担額：600,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>紙芝居という親しみ易い媒体を利用することで、大人から子供まで終始楽しく、ごみ減量の大切さや、江戸時代のリサイクル模様を学ぶことができた。</p> <p>●達成度</p> <p>イベント会場や小学校、行政施設など市内7か所で公演し、1,700人を超える観客と地元テレビ局をはじめとしたマスコミ報道により、改めて多くの市民にごみ減量化等の問題意識を啓発する取組が出来た。</p> <p>●波及効果</p> <p>ごみの減量化よりもリサイクル意識の向上に大きな効果があり、今年度以降のリサイクル活動に対して期待が持てる。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>資金面から作品づくりへの協力や、広報活動、担当職員の公演参加など市側の後援は、本事業を推進する大きな支えになり、市民参加のワークショップや、市内7か所に及ぶ公演を通じ、多くの集客とマスメディアの報道など「ごみ減量化」意識の啓発に繋がった点は、協働の効果である。</p> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>ごみの減量化をテーマとした紙芝居を用いた公演は、多くの方々から好評を頂くとともに、演劇という手法も、所管課職員だけでは対応することが困難な課題であった。両者の協働の結果、他の団体からの協力も得ることができ、本事業の広がりや深まりは市単独では困難なものであった。</p>	
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>短期間で、テーマに沿ったオリジナル作品の創作からワークショップの運営と多くの会場での公演開催という取組を行ったが、本会の今後の「公演スタイル」の多様化に寄与したことは確実であり、環境問題に取り組んでいる企業や団体などからの照会や協力要請もあり、従来の活動とともに今回の作品に関連した公演活動も積極的に展開していきたい。なお、作品的には短期決戦で習熟度に欠けている面があるので、今後の課題として作品の完成度を高めていきたい。</p> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>他のイベントと同時期に行うことで集客数の向上を図ることができたが、屋外の会場等では、セリフ等が聞こえ難くなるなど、会場に応じた舞台環境を用意することで、さらなる集客と、客の満足度を高めたい。</p> <p>特に市田小学校での小学生を対象とした公演は非常に好評を頂いたので、小学生を対象とした公演の回数等を増やし、子供自身が参加体験でき子供たちから家庭へフィードバックする様な改善が課題として残る。</p>	

事業名	市民協働「熊谷の力」くまがや郷土かるた作成事業	
実施団体等	実施団体：熊谷市子ども会育成連絡協議会	所管課：こども課
1 事業目的	市町村合併に伴い、新熊谷市版のくまがや郷土かるたを作成し活用することにより、子供たちの世代を超えた仲間づくりと家族の団らんを図るとともに、郷土熊谷を知り、郷土愛を育て、青少年の健全育成に寄与する。	
2 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・読み札・絵札を熊谷市の小学校4～6年生の全児童から募集したところ、80%の応募があった。 ・小学校29地区の地域札、市全体に関わる共通札、三人の偉人・熊谷のシンボルの役札、熊谷市をアピールするもの、子供への願いなどを題材とした。また、指導学習している「くまがや」の副読本の内容も含め、学習に役立ててもらうことも考慮に入れ作成した。 ・作成後は、子ども会、小・中学校、学童・児童館、公民館、図書館等に配布した。 	
3 事業期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業	
6 事業費	総事業費： 1,204,843円(A+B+C)	事業収入： 0円(A)
	実施団体の負担額： 244,843円(B)	市の負担額： 960,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>読み札・絵札等を子供たちに募集したところ、80%の応募があり、地元・熊谷の歴史・文化等に気付き触れる機会の一助になった。</p> <p>●達成度</p> <p>協働により熊子連未加入の地区にも参加してもらうことができた。作成したかるたは、子ども会、小・中学校、学童、児童館、公民館、図書館等に配布した。</p> <p>●波及効果</p> <p>合併後の大里・妻沼・江南の他の地区の歴史・文化を知ることができた。また、児童だけではなく保護者・市民に興味関心を示させ連帯感を築く一助となってきた。熊子連加入者以外の地域との交流が生まれるきっかけになることを期待したい。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>こども課と協働することにより、熊子連加入団体以外の地区から学校を通じ実行委員を選出することができ、大里・妻沼・江南を含めた熊谷市全体での活動が可能になった。</p>	
	<p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>熊谷市子ども会育成連絡協議会が持っているかるた作りのノウハウを活かし、市内小学生、各小学校区から選出された実行委員など、多くの市民の力を結集しかるたを作成することができた。</p>	
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>くまがや郷土かるたを作成したことは始まりであり、このかるたを通して当初の目的である子どもたちの世代を超えた仲間づくりと家族の団らんを図るとともに、郷土熊谷を知り、郷土愛を育て、青少年の健全育成に寄与する。そのためには、熊子連の加入者だけの「かるた大会」ではなく全市で取り組めるよう、健全育成会やPTAや学校との連携を求めている。さらには、学校や地域でかるたを活用してもらいたい。また、くまがや郷土かるた普及のために、かるたが一覧になっているパネル配布やかるた札の対象地に掲示板を設置していき、くまがや郷土かるた巡りを啓発し郷土熊谷をより親しく身近に知る機会の一助としたい。</p>	
	<p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>各学校から作品の募集や実行委員を選出するにあたり、学校とスムーズな連携が取れなかったことが課題となった。今後、子どもたちに地域のことを知ってもらい、学習に役立ててもらうためには、教育委員会の協力が不可欠である。</p>	

事業名	市民協働「熊谷の力」「さとのそら」消費拡大事業			
実施団体等	実施団体：NPO法人くまがや小麦の会	所管課：農業振興課		
1 事業目的	熊谷産小麦の新品種「さとのそら」を使用した製品を開発し、地産地消を推進する。			
2 事業概要	熊谷産小麦の作付け品種が「農林61号」から「さとのそら」に全面的に変更される機会をとらえ、市内の高校と協議して「さとのそら」を使用した新製品を開発・販売し、消費や認知の拡大を図る。 また、新製品を販売するにあたり、各校が開発製品シールを作成し、イベント開催を通して周知を図る。			
3 事業期間	平成26年5月15日～平成27年2月24日			
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業			
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業			
6 事業費	総事業費：	1,821,703円(A+B+C)	事業収入：	501,660円(A)
	実施団体の負担額：	325,043円(B)	市の負担額：	995,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>市内県立高校8校全てが参加し、新製品の開発や独自シールの作成及びイベントによる販売まで、生徒が取り組み、他校と交流しながら地元農産物への理解を深めることができた。</p> <p>●達成度</p> <p>当初は5校程度の参加を見込んでいたが、市内県立高校8校全てが参加し、一部の高校では授業の一環として取り組んだ。また、八木橋デパートにおいて、「市内県立高校スイーツ文化祭」を開催し、各校で開発した製品を高校生が販売実習を行った。</p> <p>●波及効果</p> <p>NHKによりテレビ放映されるなど、周知効果は大きく、市内だけでなく、県内全域へ広くPRができた。また、学校からは翌年も取り組みたいとの意見が多く出ていた。</p>			
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>新製品とイベントのチラシを市報と同時配布することができ、市民へ広く周知することが出来た。</p> <p>また、市との協働事業のため、一般的な信用があり、学校等が協力的であった。</p>			
	<p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>民間活力と連携することにより、新製品の開発力やイベント会場の借上げ交渉、作業の手配などマンパワーを遺憾なく発揮していただき、事業への協力やPR効果が絶大であった。</p> <p>また、小麦の会会員250名へのFAX、メール、チラシ等の周知により、販売面での効果が多大であった。</p>			
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>各学校との連携が取れたため、今後の事業継続は技術的には可能と思われるが、採算を考えるとまだまだ難しい。大量販売が可能になり、採算が取れれば今後も展開できる可能性があるが、採算面が課題である。</p>			
	<p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>この事業では、市内高校に参加を求め、製品の開発、シールの考案、販売など多くの効果を得ることができた。しかし、次学年の生徒による更なる製品開発やイベント参加など事業を継続し、実績を重ねることにより周知が浸透するものである。多くのボランティアに支えられながらも事業を継続するためには採算性は度外視できないため、その点が課題である。</p>			

事業名	市民協働「熊谷の力」市民後見人普及事業																		
実施団体等	実施団体：市民とともに成年後見を学ぶ会	所管課：障害福祉課・長寿いきがい課																	
1 事業目的	成年後見制度の普及と市民後見人の養成で市民による成年後見人等の引き受けの増加を図り、地域社会の福祉向上を図る。																		
2 事業概要	認知症高齢者が462万人、認知障害の方が400万人との報道があり、一人暮らしの高齢者の増加も見られる中、地域で安心安全に暮らすネットワークの一つとして市民後見人の育成と支援が必要と考え、市民後見人養成講座（基礎講座・応用講座・専門講座）を開催した。																		
3 事業期間	平成26年 4月1日～平成 27年2月28日																		
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業																		
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業																		
6 事業費	総事業費： 304,346円(A+B+C)	事業収入： 55,000円(A)																	
	実施団体の負担額： 50,346円(B)	市の負担額： 199,000円(C)																	
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のとおり、3回の講座を開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>日 程</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎講座</td> <td>平成26年8月30・31日</td> <td>熊谷会館展示室</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>応用講座</td> <td>平成26年9月21・22・23日</td> <td>熊谷会館展示室</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>専門講座</td> <td>平成26年11月23日・24日</td> <td>埼玉県北部事務所大会議室</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎講座を開催するにあたり、参加者募集記事を市報に掲載し、チラシを障害福祉課、長寿いきがい課、公民館等に設置した。 ・応用講座は基礎講座を受講された方を対象に、専門講座は応用講座を受講した方を対象に開催した。 <p>●達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初、基礎講座に60人の参加を予定したが、目標を下回った。しかしながら、参加者の後見制度への関心が高く、応用講座、専門講座と全講座を修了した人が16人であり、最終目標であった20人に若干及ばずともほぼ達成できたと考えられる。 <p>●波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全講座終了後の勉強会に修了者16人のうち14人の参加があった。今後の成年後見制度普及活動等に期待が持てる。 ・今回の講座参加者から任意後見の利用を考えている方を紹介され、制度の概要や利用方法の説明を行っている。また、障害者施設の関係者からの成年後見についての照会も出てきており、広がりが出てきている。 				日 程	会 場	参加者数	基礎講座	平成26年8月30・31日	熊谷会館展示室	21人	応用講座	平成26年9月21・22・23日	熊谷会館展示室	18人	専門講座	平成26年11月23日・24日	埼玉県北部事務所大会議室	16人
	日 程	会 場	参加者数																
基礎講座	平成26年8月30・31日	熊谷会館展示室	21人																
応用講座	平成26年9月21・22・23日	熊谷会館展示室	18人																
専門講座	平成26年11月23日・24日	埼玉県北部事務所大会議室	16人																
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の広報誌掲載や公民館等でのチラシ配布で広範囲での告知ができ、主婦層から福祉施設関係者などの参加を得ることができた。 ・成年後見制度の普及として、修了者の中から「親族の後見」、「知人の後見」等を考え、市民後見人として活動する人材を得ることができたことは大きな成果だった。 <p>●所管課から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁護士や司法書士などの専門職後見人がその役割を担うだけでなく、資力の乏しい多くの高齢者・障害者に対する専門職後見人以外の市民後見人を中心とした支援体制を構築する必要がある中、市民後見人普及事業により地域における市民後見活動を継続する方が14人得られたことは大変な成果である。 																		

<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の普及には、一市民団体のみでは力不足であり、市内の関係団体（民生委員や福祉関係団体等）との連携を図っていききたい。 ・今後も成年後見制度の普及と、後見を必要とする人が住み慣れた地域で安心安全に暮らせるネットワークづくりをめざし、市民の目線でそれを支える人材としての市民後見人の養成を続けていきたいと考えている。 ・各自治体の必須事業となっている「法人後見支援事業」等にも何らかの形で参加させていただき、これまでに勉強会等に参加いただいた多くの市民の皆様の活動の場をいただけたらと思っている。
	<p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、成年後見制度の普及に尽力している「市民とともに成年後見を学ぶ会」の活動に、協力していく。 ・市民とともに成年後見を学ぶ会は、平成23年度に「成年後見制度普及事業」を、今回は、「市民後見人普及事業」を実施し、確実に実績を積み重ねている。今後、市として「成年後見制度法人後見支援事業」等の実施を検討するにあたり、協力をいただければありがたい。

事業名	市民協働「熊谷の力」荒川緑地を花と緑でいっぱい事業	
実施団体等	実施団体：NPO 法人 熊谷リリース☆ふあいぶるクラブ	所管課：公園緑地課
1 事業目的	荒川緑地の広場に花壇を整備し、市民の憩いの場をつくる。	
2 事業概要	1 「市民いきいき広場」の花壇整備 年間を通じて花の咲く市民の憩いの場へ変身させる。 2 「自由広場（芝グラウンド）」の補修整備 ホームグラウンドとして利用している傷んだ芝グラウンドの補修整備を実施する。	
3 事業期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業	
6 事業費	総事業費： 109,000 円 (A + B + C)	事業収入： 0 円 (A)
	実施団体の負担額： 0 円 (B)	市の負担額： 109,000 円 (C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民いきいき広場」は、花壇を整備し季節の花を植えたことにより、市民の憩いの場とすることができた。 ・「自由広場」は、社会人などの利用により傷んだ芝の補修を行いグラウンドの保全が図れた。 <p>●達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民いきいき広場」は、手入れを止めれば直ぐに荒れ野になってしまう場所であり、週末ごとの僅かな手入れだが、継続作業の効果が目に見えて来ている。 ・「自由広場」は、補修の効果は高く芝が生育し易い環境にまで戻ってきた。 <p>●波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施団体及び他の利用者の公園愛護意識の向上につながった。 ・訪れた市民並びに他の利用者の、緑や花を愛でる心の育成につながった。 	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>所管課とは年間を通じて密な連絡を取ることができ、いろいろな面で我々の活動に協力していただき助かった。特に「市民いきいき広場」に関して、以前より春から初夏・初秋を中心に多数のバークュー集団が車で乗り入れては大量のゴミを残していったが、警告看板の設置や車両が進入できないよう溝を掘ってもらったことで抑制され、広場をきれいに保つことができた。</p> <p>1年間の活動を終えて、公の施設を日頃から手入れをしている団体が存在していることがわかるだけでも美化意識の向上に良い効果があると感じた。</p> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民いきいき広場」は、各種運動施設の整備された広い荒川緑地の一角にあり、これまで雑草地になることもある場所であったため著しく美化が図れた。 ・「自由広場」の芝生グラウンドについては、実施団体が年間を通じて不良箇所の補修を行うため即効性のある整備につながっている。 ・公園で禁止している火気の使用、車両の乗入れなどを行う利用者について情報提供があり、監視の目としての効果もあった。 	
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>今後も可能な範囲でこのような地道な活動を続けていき、外部からの賛同者、賛同団体との協力活動へ発展させたいと考えている。</p> <p>グラウンドに関していえば、我々の行動を見て他の利用団体も何かを感じていただき、願わくば練習後に整備を行うようになる日を期待している。</p> <p>また、市民の広場・グラウンドであるからには、利用者が良識とルールの範囲内で自主的に維持管理できるように仕向けていければと期待している。</p>	

●所管課から見た今後の展開と課題

- ・この事業の内容は、続けて活動してもらうことで効果が得られるものなので、継続してバックアップしていきたい。
- ・花壇の整備箇所が「市民いきいき広場」の一部であるため、エリアの拡大を期待する。
- ・他の利用団体への波及効果を期待したい。

事業名	市民協働「熊谷の力」小学生から考える「生命（いのち）」の授業 ～サバイバーが語るがん教育～	
実施団体等	実施団体：くまがやピンクリボンの会	所管課：健康づくり課
1 事業目的	小中学校で実施する、「生命（いのち）の授業」を通じて、がんに関する正しい知識を身に付け、いのちの大切さや思いやりの気持ちを醸成するとともに、がん検診の重要性を伝える。	
2 事業概要	くまがやピンクリボンの会のメンバーが学校に出向いて、がんについての体験談を語り、がんについての正しい知識とがん検診の必要性を伝えた。市は、くまがやピンクリボンの会への補助金交付のほか、「生命（いのち）の授業」の開催に係る市関係部署との調整を行った。	
3 事業期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業	
6 事業費	総事業費： 1,843,352 円	事業収入： 0 円(A)
	実施団体の負担額： 415,352 円	市の負担額： 1,428,000 円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>児童、生徒が、がんに対する正しい知識を身に付けるとともに、いのちの大切さや思いやりの気持ちを醸成できた。また、将来のがん検診の受診率向上と、がんの早期発見・早期治療に繋がることが期待される。</p> <p>●達成度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中学校 全16中学校に対し、「生命（いのち）の授業」を20回実施した。 2 小学校 希望のあった11小学校に対し、「生命（いのち）の授業」を11回実施した。 <p>●波及効果</p> <p>家族や身近な人と、がんについて話す機会ができ、また、がん検診に行くように伝えることができるので、がん検診の受診率向上と、がんの早期発見・早期治療に繋がるのが期待できる。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県初の「がん教育」が実現したのは一重に行政のご理解と後押しがあったからである。平成26年度厚生労働省・文部科学省では全国で「がん教育」モデル校を募集したが、埼玉県は残念ながら該当しなかった。にもかかわらず、こうして実施できたのは、熊谷市の「熊谷の力」助成金制度で市民団体へ啓発活動へのチャンスを与えてくださっているからである。 ・ 健康づくり課からは熊谷市の「がん」の現状や数値など、健康づくりに関する資料を提供いただき、正しい現状を子どもたちに伝えることが出来た。 ・ 教育委員会学校教育課のスケジュール計画のおかげで、授業打合せ、本番等、スムーズに行うことが出来た。また、授業で使用したパワーポイントの内容を確認、吟味、助言くださり、児童生徒らへのわかりやすい授業が実現できた。 ・ さらながん検診への理解、必要性を伝えることが出来た。 ・ 実施校のみに限らずがん教育資料「がんってなあに？」を市内全児童生徒に配布して下さった。作成費用は膨大であり、補助金がなければ実現できなかった。 ・ 富岡熊谷市長、野原教育長の参観をはじめ、埼玉県内外からの授業参観希望者を学校関係者みなさまが快く受け入れ、迎えてくださり、熊谷市の取り組みを広く知って頂くことが出来た。 	

	<p>●所管課から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん体験者が自らの体験を映像等を交えて語ることで、生徒がより自分のこととして考えることができ、正しい知識の啓発ができた。 ・がん体験者が、がんは早期発見・早期治療により克服できることを伝えることで、未来への希望の持てる授業ができた。 ・がん患者とその家族の体験談を聞いた後に、ヘルスカウンセラーが専門的な授業を実施することでの確なフォローが行えた。 ・民間活力と連携することにより、広い視点での授業が実施でき、分かりやすい資料の作成もできた。
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がん教育」継続に向け、授業内容の再考。 サバイバー（がん患者）体験談をもっと取り入れ、体験者ならではの視点で生命の大切さ、サバイバー差別、偏見をなくしていくことができるのは教育に他ならないものと考えます。 ・児童生徒らに配布する「がん資料」の最新情報への更新。 ・親子、家族で授業に対する会話のキャッチボールができるように保護者への正しいがんの知識の普及。また、先生方へのがん教育理解への普及。 ・市民団体からNPO法人格への申請登録の検討。 ・熊谷市のがん検診受診率の向上。（子どもたちから家族へ「検診に行ってね」との声掛けも狙いの一つである。） ・家族にがん患者がいる児童生徒らへの配慮やケアの窓口をどうしたらよいか。 ・授業のことが口コミで広がり、対象とならなかった学年、学校、または保護者らから「授業を聞きたい」との声を頂いた。 <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は単年度でも効果があったが、一部の学年への授業であったため、より多くの生徒を対象に授業を実施できるよう、特定の学年での継続的な授業が必要である。 ・がん教育は、市としても重要性を認識しており、市の事業として実施団体の協力を得て継続したいと考えている。